

長岡工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	グローバルP B L II	
科目基礎情報							
科目番号	0017		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	専門共通選択科目		対象学年		5		
開設期	集中		週時間数				
教科書/教材	各実習により異なる。						
担当教員	青柳 成俊,各実習プログラム 責任者						
到達目標							
この科目は長岡高専の教育目標の(B)(E)(F)と主体的に関わる。この科目の到達目標と、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を、到達目標、評価の重み、学習・教育目標との関連の順で次に示す。①異なる文化的背景を持つ多様な国際文化を理解できる。20%(b3)、②課題について国際共同チームで協力して解決案を英語で提示出来る。30%(b3)(e1)(e2)(f2)。③与えられたあるいは自ら抽出した課題が地域社会と産業にどのように関わっていたか説明出来る。20%(f2)。④成果を論理的にまとめ、発表・討論できる。30% (f2)。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	異なる文化的背景を持つ多様な国際文化を詳細に理解できる。	異なる文化的背景を持つ多様な国際文化を理解できる。	異なる文化的背景を持つ多様な国際文化を概ね理解できる。	左記に達していない。			
評価項目2	課題について国際共同チームで協力して解決案を英語で詳細に提示出来る。	課題について国際共同チームで協力して解決案を英語で提示出来る。	課題について国際共同チームで協力して解決案を英語で概ね提示出来る。	左記に達していない。			
評価項目3	与えられたあるいは自ら抽出した課題が地域社会と産業にどのように関わっていたか詳細に説明出来る。	与えられたあるいは自ら抽出した課題が地域社会と産業にどのように関わっていたか説明出来る。	与えられたあるいは自ら抽出した課題が地域社会と産業にどのように関わっていたか概ね説明出来る。	左記に達していない。			
評価項目4	情報を収集・整理・分析し、問題解決に詳細に結びつけることができる。	情報を収集・整理・分析し、問題解決に結びつけることができる。	情報を収集・整理・分析し、問題解決に概ね結びつけることができる。	左記に達していない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	近年、市場のグローバル化とそれに伴う企業の多国籍化が急速に進んでおり、国際的に活躍できるグローバル人材の育成が求められています。本実習では、グローバル人材に必要とされるコミュニケーション能力、チャレンジ精神、異文化理解を、諸外国を学びのフィールドとして養成します。具体的には海外派遣先で協定校の学生と混成チームで地域の課題解決に取り組むと共に（国際版課題解決型授業）、国際的な人的ネットワークの形成を目指します。 ○関連する科目：英語全般（1-5年次履修）、インターンシップI及びII（4年次履修）						
授業の進め方・方法	内容・時期共に実習プログラムによって異なる。 実習プログラム例：グローバルPBLII認定要件を満たした海外派遣研修等。						
注意点	・グローバルPBLIIは通年・60時間以上（または10日間以上）となっています（単なる異分野交流では認定されません）。下記の授業計画は一般的な例です。詳細は各実習担当者に確認下さい。 ・海外派遣研修等において国外で現地の学生とPBL活動を行います。研修先や実習プログラム内容により、単位認定の可否は変わりますので受講前に各実習プログラム担当者に必ず確認して下さい。 ・海外で実施するため、実習プログラム担当者からの注意は必ず遵守して下さい。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		本科目の概要と到達目標を説明出来る。		
		2週	事前研修1		海外渡航に関して下級生が調べた内容を指導及び評価出来る。		
		3週	事前研修2		派遣先（国、文化等）について下級生が調べた内容を指導及び評価出来る。		
		4週	事前研修3		派遣先での実習について下級生が調べた内容を指導及び評価出来る。		
		5週	現地での実習1－現地文化理解		現地の人と英語で交流し、積極的に異分野コミュニケーションが出来る。		
		6週	現地での実習2－現地文化理解		現地の人と英語で交流し、自らの文化的背景をしっかりと紹介出来る。		
		7週	現地での実習3－現地文化理解		現地の土地を散策し、文化的背景を理解する。		
		8週	現地での実習4－課題解決型実習		課題解決に関するディスカッションをリードしながら英語で出来る。		
	2ndQ	9週	現地での実習5－課題解決型実習		下級生が考えた作業工程を指導及び評価出来る。		
		10週	現地での実習5－課題解決型実習		下級生が考えた課題解決案を指導及び評価出来る。		
		11週	現地での実習6－課題解決型実習		課題解決案を主体的に英語でプレゼンすることが出来る。		
		12週	現地での実習7－現地企業等訪問		企業等が抱える課題を積極的にディスカッションしながら考えることが出来る。		
		13週	現地での実習8－現地企業等訪問		下級生が考えた企業等が抱える課題の解決案を指導及び評価出来る。		
		14週	事後研修1		下級生が考えた実習の成果を指導及び評価出来る。		
		15週	事後研修2		下級生が考えた実習の成果を指導及び評価出来る。		
		16週	実習報告会		実習の成果を主体的に発表する事が出来る。		

後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用能力の基礎固め	母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3 前5,前6,前7,前9
			英語運用能力向上のための学習	実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3 前5,前6,前7,前9
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3 前5,前6,前7,前9
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3 前5,前6,前7,前9
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3 前5,前6,前7,前9
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3 前5,前6,前7,前9
	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3 前5,前6,前7,前9
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3 前5,前6,前7,前9
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3 前5,前6,前7,前9
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3 前5,前6,前7,前9
				日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3 前5,前6,前7,前9
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3 前5,前6,前7,前9
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3 前5,前6,前7,前9
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3 前5,前6,前7,前9
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3 前5,前6,前7,前9
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3 前5,前6,前7,前9
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3 前8
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3 前8
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3 前8
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3 前3
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3 前3
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3 前3
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3 前3
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3 前3
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3 前3
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3 前8,前9,前10,前11

				複数の情報を整理・構造化できる。	3	前8,前9,前10,前11
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	前8,前9,前10,前11
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	前8,前9,前10,前11
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	前8,前9,前10,前11
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	前8,前9,前10,前11
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	前8,前9,前10,前11
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	前8,前9,前10,前11
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	前8,前9,前10,前11
				周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	前8,前9,前10,前11
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	前8,前9,前10,前11
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	前8,前9,前10,前11
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	前8,前9,前10,前11
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	前8,前9,前10,前11
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	前8,前9,前10,前11
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	前8,前9,前10,前11
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	前8,前9,前10,前11
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	前8,前9,前10,前11
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	前8,前9,前10,前11
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	前8,前9,前10,前11
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	前8,前9,前10,前11
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	前8,前9,前10,前11
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	前12,前13
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	前12,前13
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	前12,前13
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	前12,前13
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	3	前12,前13
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	前12,前13
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	前12,前13
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	3	前12,前13
				企業には社会的責任があることを認識している。	3	前12,前13
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	前12,前13
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	前12,前13
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	前12,前13
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	3	前11
				課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	3	前11
				提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	3	前11
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	3	前11

評価割合					
	プログラム責任者の評価	報告書	発表	合計	
総合評価割合	30	40	30	100	

基礎的能力	0	0	0	0
專門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	30	40	30	100